

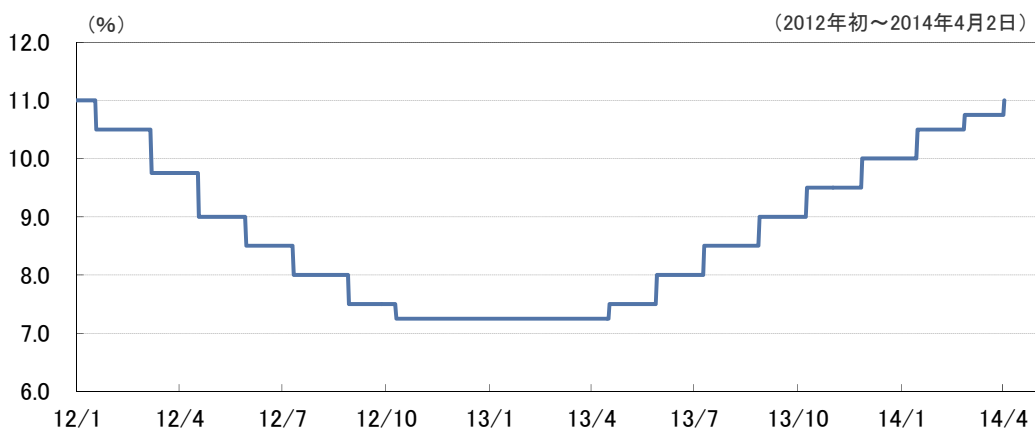
## ブラジルが前回に続き0.25%ポイント利上げ

2014年4月3日

### <ブラジル中央銀行:0.25%ポイントの利上げで政策金利は11.00%に>

ブラジル中央銀行は、4月1日(現地、以下同様)から2日にかけて金融政策委員会(Copom)を開催し、政策金利(Selic Target Rate)である翌日物金利の誘導目標を全会一致で0.25%ポイント引き上げて11.00%としました。今回の利上げは2013年4月の利上げ開始から9回連続となります。中央銀行は声明文において、「委員会は、現在のところ、政策金利を0.25%ポイント引き上げることを全会一致で決定した。次回の会議までにマクロ経済状況の進捗を注視し、金融政策の次の段階を決定する。」と述べています。

### ブラジルの政策金利の推移



(出所)ブルームバーグ

### <利上げの背景>

中央銀行はインフレを抑えるために2013年4月に0.25%ポイント、その後は0.50%ポイントの利上げを続けてきましたが、前回2014年2月は0.25%ポイントに利上げ幅を縮小しました。一方で、2014年2月のインフレ率が前年同月比で5.7%と前月から加速しており、今回も前回同様0.25%ポイントの利上げを行うことでインフレへの対処を行ったと考えられます。

### <金利の見通し>

中央銀行が声明文で「金融政策の次の段階」に言及したことは利上げサイクルの終了が近いことを示していると思われます。今回の委員会の詳細は来週発表される議事録の確認が必要となりますが、中央銀行は、前回の金融政策委員会の議事録や3月に公表されたインフレ報告書で金融政策の効果は時間差を伴って波及すると述べており、利上げの効果からインフレ圧力の落ち着きを予想していると考えられます。債券市場では、利上げサイクルの終了が近いとの見方から、国債利回りは低下しやすいと見込みます。

(為替の見通しについては次頁をご覧ください。)

#### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00~17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

## <為替の見通し>

中央銀行が適切な金融政策を行い過度なインフレ圧力を抑制することは、実質所得の増加から消費が回復するなど、インフレと経済成長のバランスが整うことにつながると期待されます。中央銀行の理事は「レアル高はインフレにとって好ましい」と発言しており、ある程度レアル高を許容することでインフレを抑制する可能性があります。レアルは、市場での利上げサイクル終了観測の高まりから短期的に調整する可能性があります。中央銀行がレアル買い介入プログラムを実施していることや、債券利回りが魅力的な水準にあることなどから底堅く推移すると見込まれます。

ブラジル国債の利回りは中長期の年限で12%台であり、ブラジル国債は引き続き魅力的な投資機会を提供していると考えております。

### ブラジル・レアルの推移



(出所)ブルームバーグ

以上

※1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。